



## まめ知識

### ■外来種って何？

外来種（外来生物）とは、人の手で持ち込まれた、もともとその土地にいない生物のことを言います。外来種が入り込んだとき、個体数の増加に歯止めがかからなくなることがあります。場合によっては、それまでの生物同士の関係を破壊し、もともとの生物を絶滅させてしまうことさえあります。長い目で見れば、日本や房総に新しい生物がひとりでも入り込むことはあったし、これからもあるでしょう。しかし、これは長い歴史の中で起きることだと考えられています。最近の人の手による変化は、突然と言えるくらい、きわめて短時間に起きたことで、在来の生物にとっては対処しきれないことが考えられ、多様性が減ってしまうことにつながります。



アライグマ



カミツキガメ

→千葉県における外来種対策について（千葉県生物多様性センター）<http://www.bdcchiba.jp/alien/>

### ■渡りをする鳥

春から夏にかけて、林も草原も鳥のさえずりでにぎやかになります。さえずる鳥には、一年を房総で過ごす鳥と、南の国から渡ってきたオオルリやキビタキなどの夏鳥もいます。去年オオルリがいた林に、今年姿が見えないとがっかりします。渡ってくるはずの鳥がこない、渡りの道中で何か起きたのではないか、冬を過ごす南の国の林が伐採されてしまったのではないか、などと心配をしてしまいます。

また秋から冬になると、ツグミやカモなど冬鳥が大陸からやってきます。特にカモの仲間にとって、海岸線や干潟、湖沼など房総の水辺はとても重要な場所です。干潟や海岸を代表する鳥には、シギやチドリもいます。多くのシギやチドリは春と秋の2度、日本に渡ってきます。（旅鳥）そして、春にはさらに北の国を、秋には南の国を目指します。

